

令和5年度田代山及び周辺地域における ニホンジカ捕獲等事業業務仕様書

（適用）

第1条 本仕様書は、福島県（以下「甲」という。）が行う令和5年度田代山及び周辺地域におけるニホンジカ捕獲等事業業務に適用する。

（通則）

第2条 本業務は、本仕様書により実施する。なお、これに記載のない事項については、別添1「福島県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画（ニホンジカ）」によるものとする。

（目的）

第3条 県内において、出沒や被害の増加が顕著となったニホンジカについて、尾瀬国立公園に位置する田代山の高山植物等へ被害を発生させている。また、田代山に連なる帝釈山についても食害を発生させている。

本業務は、ニホンジカの動向を把握し、ニホンジカの捕獲効率を高め、ニホンジカの捕獲を促進することで、自然植生への保護対策を図る。

（提出書類）

第4条 受託者（以下「乙」という。）は、次の各号に掲げる書類について、それぞれ定められた期日に提出しなければならない。

- （1）委託業務着手届（様式第1号） 本業務に着手したとき。
- （2）主任技術者通知書（様式第2号） 主任技術者を定めたとき。
- （3）作業工程表（様式第3号） 委託業務着手届を提出するとき。
- （4）委託業務完了届（様式第4号） 本業務を完了したとき。
- （5）その他業務遂行上必要と認められるもので、甲が指示したもの。

（事業実施区域）

第5条 田代山（福島県南会津郡南会津町内）、帝釈山（福島県南会津郡南会津町内及び檜枝岐村内）及び周辺地域（別紙1）

（業務内容）

第6条 本業務における業務内容は、次のとおりとする。

（1）打合せ

初回、中間、終了前の各段階で行うこととするが、適性かつ円滑に事業を遂行するため乙は適宜甲と連絡を取りながら事業を実施するものとする。

打合せ結果について、乙が書面（打合せ簿）に記録し相互に確認を行う。

（2）業務準備

業務計画書を作成し、本業務着手後速やかに甲に提出する。業務計画書には、業

務スケジュール、GPS発信器装着方法、個体追跡調査方法、捕獲方法、捕獲個体の処分方法、錯誤捕獲の対応、業務実施体制、安全管理及び連絡体制（緊急時を含む）を記載する。

作業許可や国有林入林届等、業務の遂行に必要な許可申請は乙が行う。また、事業実施の際には、土地利用者等の関係者への注意喚起を行う。

下記（３）の実施の前に、甲とともに地元関係者と現地確認を行う。また、下記（５）の実施の前に、甲とともに地元関係者への説明を行う。

（３）センサーカメラの設置

下記（４）及び（５）で実施する捕獲地域において、事前に甲が用意するセンサーカメラを２０基設置し、得られるデータを参考情報として活用する。この設置期間は、原則として６月中旬から１０月中旬までの５か月間とし、月１回以上のメンテナンス（電池交換、データ回収、カメラ破損の確認等）を実施する。なお、交換用乾電池等は乙が負担する。

カメラの破損や紛失等が確認された場合、乙は甲に速やかに報告するものとする。

（４）GPS発信器による追跡調査

別紙１の調査区域内において、麻酔銃により１頭のニホンジカを捕獲し、GPS発信器を装着し、行動範囲等の把握を目的として個体追跡調査を行う。

捕獲地域は調査区域を対象とし、具体的な地域については甲と乙の協議により決定する。なお、捕獲個体の性別は問わないこととし、GPS発信器及びその他追跡調査に必要な機器及び経費は乙が負担する。GPS発信機はイリジウム通信機能付きとする。

装着した発信器から得られるデータを解析し、行動範囲や季節移動等の個体特性の分析を行う。

（５）くくりわなによる捕獲

上記（３）及び（４）で得られた情報をもとに、くくりわな４０基を設置し、設置後は２０回の見回りを行う。わなの設置や見回りは、２人１組で行い、具体的な捕獲地域については甲と乙の協議により決定する。なお、捕獲に必要な資機材は乙が負担する。

また、誘引物を使用する場合は、ツキノワグマの錯誤捕獲や周辺環境への配慮を行って実施する。

止め刺しは、原則銃以外の方法により行うこととする。なお、やむを得ない事象が発生した場合は、甲と乙の協議により銃使用の判断を行う。

（６）捕獲個体の処分

捕獲個体は、甲及び地元関係者等と協議の上、捕獲場所から搬送し、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（平成１４年法律第８８号）の規定に基づき適切な方法で処理する。

（７）錯誤捕獲の対応

ニホンジカ以外の獣（イノシシを除く）が捕獲された場合は、原則として放獣する。イノシシについては許可手続き等を行った上で止め刺しを行い、上記（６）に基づき処理する。

なお、麻酔銃の対応が必要な場合は、乙が実施する。

（８）豚熱（ＣＳＦ）防疫対策

乙は、別添２に従い、豚熱（ＣＳＦ）防疫対策を講じるものとする。

（９）実績報告

乙は、業務終了時に、次に掲げる書類等を甲に提出するものとする。なお、各様式に記載する捕獲区画は、福島県ハンターメッシュとする。

① 捕獲個体記録表（くくりわな）

ニホンジカ：様式第５－１号、イノシシ：様式第５－２号

② 指定管理鳥獣捕獲等事業記録表（わな猟）（様式第６号）

③ 作業日報（様式第７号）

④ 捕獲個体の尾（ニホンジカのみ）

１個体ずつチェック付きの袋に保存し、捕獲個体記録表の個体番号との対応ができるよう整理する。冷蔵もしくは冷凍にて保管する。

⑤ 捕獲個体の写真（ニホンジカのみ）

ア 個体番号と捕獲日を捕獲個体の右横腹にスプレー等で記入する。

イ 個体番号は、捕獲個体記録表の個体番号とする。

ウ カメラの機能により捕獲日を写真に記録する。また、捕獲日を記載した表示板とともに撮影する。

⑥ 処分状況の書類等

ア 埋設による処分の場合、処分状況が分かる写真を撮影する。

イ 処分場による処分の場合、処分場で発行される伝票等

（１０）実包の管理

① 乙は、捕獲従事者に対し、適切な実包管理について指導を徹底するものとする。

② 乙は、捕獲従事者の実包管理の状況について、都道府県公安委員会が発行する譲受許可証又は猟友会が発行する無許可譲受票の記載内容と実際の実包を確認するなど、常に捕獲従事者ごとに数量等を把握しておかなければならない。

③ 乙は、捕獲従事者ごとの実包の譲受・使用見込み数量について、鉛製銃弾・非鉛製銃弾別に、指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲業務実包購入計画一覧表に記載しなければならない（様式第８号）。

④ 乙は、捕獲従事者ごとの実包の使用状況等、（譲受数量、使用実績数量、残数量、残弾の取扱い（他の捕獲業務に転用、廃棄など））について、鉛製銃弾・非鉛製銃弾別に、指定管理鳥獣捕獲等事業ニホンジカ捕獲業務実包管理一覧表に記載しなければならない（様式第９号）。

（安全管理）

第７条 乙は、業務履行にあたり、交通、気象、地域状況を十分に把握し、事業実施

者の人身事故はもとより第三者に危害を及ぼさないよう万全の措置を講じなければならない。事業実施地域（別紙１）はツキノワグマの生息地となっているため、遭遇しないよう特に注意し、本業務に関して第三者に損害を与えた場合は、乙の責任において措置するものとする。

（成果品）

第８条 本業務による成果品は次のとおりとする。なお、成果品の著作権は福島県に属する。

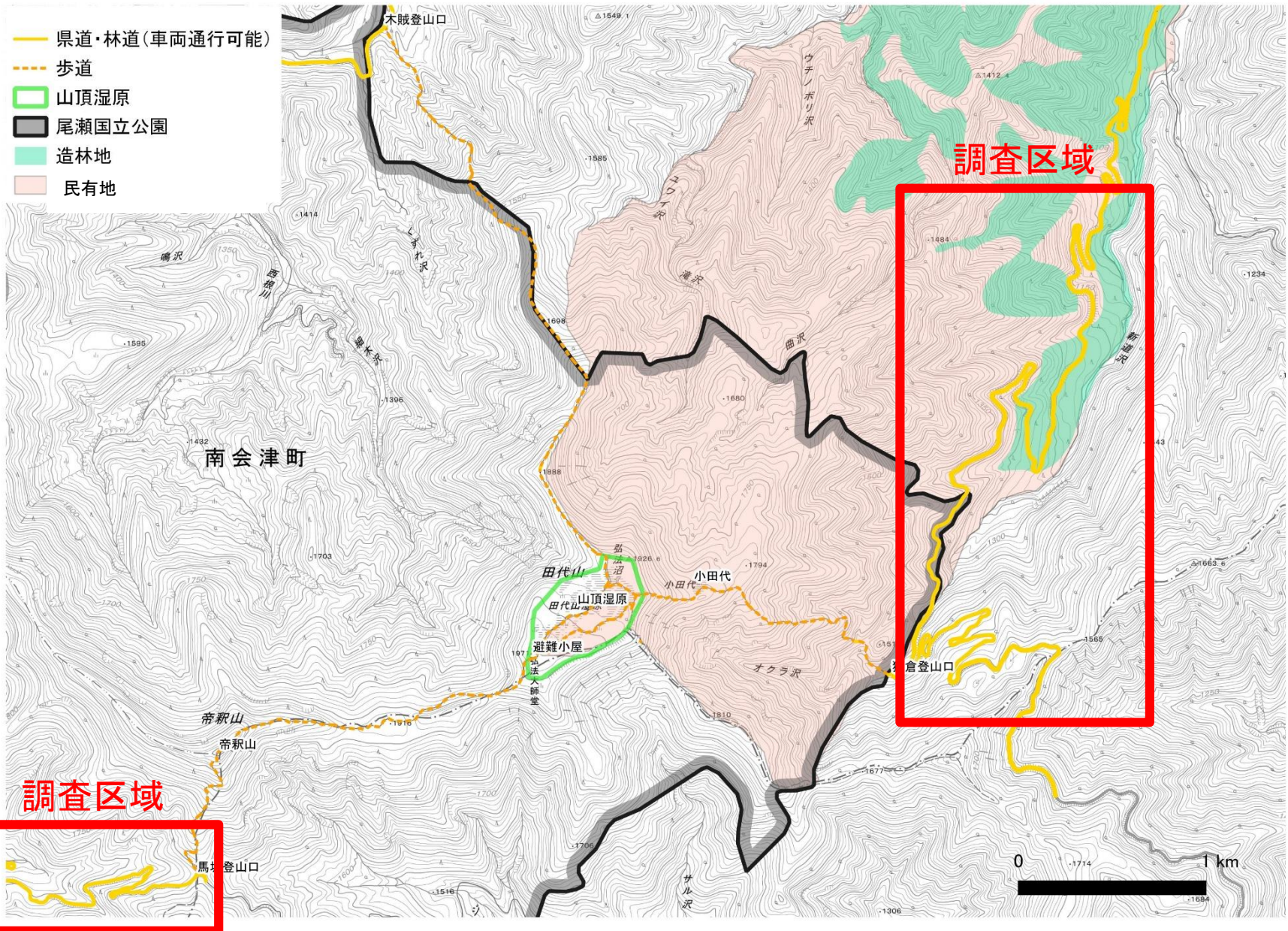
- ① 調査報告書（任意様式） ２部
本業務における課題及びその改善策についても記載すること。
- ② カメラ設置場所、捕獲場所はシェープファイルで整理すること。
- ③ 電子データ(DVD-R等の電子媒体) ２枚
- ④ 上記のほか、甲が必要と認める書類

（その他）

第９条 その他、この仕様書に定めのない事項については、甲と乙の協議の上、決定するものとする。

事業実施地域

別紙1



(様式第 1 号)

委 託 業 務 着 手 届

令和 年 月 日

(契約権者)

様

住 所

受託者

氏 名

令和 年 月 日付け契約の下記委託業務は、令和 年 月 日着手しましたので届けます。

記

1 委託業務の名称

2 委託料の額 ¥ _____

3 委託の期間 着 手 令和 年 月 日

履行期限 令和 年 月 日

(様式第2号)

主任技術者通知書

令和 年 月 日

(契約権者)

様

住 所

受託者

氏 名

令和 年 月 日付け契約の 業務について、委託契約書第6条に基づき主任技術者を下記のとおり定めましたので、通知します。

記

1 氏 名

2 生年月日

3 住 所

4 主任技術者が常駐する場所

5 地位・職名等

(様式第 3 号)

作業工程表

委託業務の番号															委 託 の 期 間	着 手 履行期限	令和 令和	年 年	月 月	日 日								
委託業務の名称															受 託 者 住 所 氏 名													
工 種	種 別	単 位	員 数	1 日 当 たり 作 業 量																								

- 注 1. 工程は棒線で表示すること。
2. 変更の場合は、変更工程を下段に朱書で表示する。

(様式第 4 号)

委託業務完了届

令和 年 月 日

(契約権者)

様

住 所

受託者

氏 名

令和 年 月 日付け契約の下記委託業務は、令和 年 月 日完了しましたので成果品を添えて届けます。

記

1. 委託業務の名称

2. 委託料の額 ¥ _____

3. 委託の期間 着 手 令和 年 月 日

履行期限 令和 年 月 日

										くくりわな
個体 番号	捕獲日	性別	幼・成	体長 (cm)	体高 (cm)	体重 (kg)	捕獲市町	捕獲区画	処分方法	備 考
1	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
2	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
3	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
4	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
5	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
6	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
7	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
8	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
9	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
10	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
11	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
12	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
13	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
14	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
15	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
16	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
17	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
18	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
19	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
20	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
21	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
22	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
23	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
24	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
25	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		

										くくりわな
個体 番号	捕獲日	性別	幼・成	体長 (cm)	体高 (cm)	体重 (kg)	捕獲市町	捕獲区画	処分方法	備 考
1	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
2	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
3	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
4	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
5	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
6	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
7	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
8	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
9	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
10	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
11	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
12	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
13	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
14	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
15	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
16	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
17	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
18	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
19	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
20	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
21	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
22	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
23	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
24	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		
25	/	雄・雌	幼・成				南会津町	D		

指定管理鳥獣捕獲等事業記録表（わな猟）

出 獵 者	従事者 証番号	第	号
	氏名		
主な対象	<input type="checkbox"/> イノシシ・ニホンジカ両方 <input type="checkbox"/> イノシシのみ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカのみ （該当するところに、✓印を入れてください 例：✓）		

- イノシシ・ニホンジカ獺（わな獺）をおこなった場合、この用紙に記入してください。
- グループでわなを設置した場合は、重複のないよう代表者1名が記入してください。
- 捕獲がなかった場合についても、記入してください。
- 市町村名は、旧市町村名ではなく、現在の市町村名で記入してください。

●箱わな・くくりわな・囲いわなを共に設置した場合は、別行に記入してください。

● 1 度に 2 カ所以上のメッシュに設置した場合は、メッシュごとに記入してください。

●捕獲したイノシシ・ニホンジカの頭数を、オス・メス別に記入してください。

[illegible]

【記入例】

作業日報

(様式第7号)

[illegible]

【様式第8号】

指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲業務実包購入計画一覧表

業 務 名	令和5年度田代山及び周辺地域におけるニホンジカ捕獲等事業業務委託					
受 託 業 者 名						
捕 獲 対 象 鳥 獣	ニホンジカ					
捕 獲 目 標 頭 数						
購 入 予 定 銃 弾 数	非鉛弾	発	鉛弾	発	合計	発

(内訳)

従 事 者 番 号	捕獲従事者氏名	譲受許可証			無許可譲受票			購 入 予 定 総 計
		非鉛製銃弾 購 入 予 定	鉛製銃弾 購 入 予 定	購 入 予 定 合 計	非鉛製銃弾 購 入 予 定	鉛製銃弾 購 入 予 定	購 入 予 定 合 計	
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
合計								

【様式第8号】

指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲業務実包購入計画一覧表(記載例)

業 務 名	令和5年度田代山及び周辺地域におけるニホンジカ捕獲等事業業務委託					
受 託 業 者 名						
捕 獲 対 象 鳥 獣	ニホンジカ					
捕 獲 目 標 頭 数	10頭					
購 入 予 定 銃 弾 数	非鉛弾	520発	鉛弾	80発	合計	600発

(内訳)

従 事 者 番 号	捕獲従事者氏名	譲受許可証			無許可譲受票			購 入 予 定 総 計
		非鉛製銃弾 購 入 予 定	鉛製銃弾 購 入 予 定	購 入 予 定 合 計	非鉛製銃弾 購 入 予 定	鉛製銃弾 購 入 予 定	購 入 予 定 合 計	
1	●● ●●	100	0	100	0	0	0	100
2	○○ ○○	0	0	0	200	0	200	200
3	■■ ■■	0	80	80	0	0	0	80
4	△△ △△	0	0	0	120	0	120	120
5	◆◆ ◆◆	0	0	0	100	0	100	100
合計		100	80	180	420	0	420	600

【様式第9号】※受託者が業務完了報告書に添付

指定管理鳥獣捕獲等事業ニホンジカ捕獲業務実包管理一覧表

業 務 名	令和5年度田代山及び周辺地域におけるニホンジカ捕獲等事業業務委託					
受 託 業 者 名						
捕 獲 頭 数						
当初購入予定銃弾数	非鉛弾	発	鉛弾	発	合計	発
譲 受 銃 弾 実 績	非鉛弾	発	鉛弾	発	合計	発
使 用 銃 弾 実 績	非鉛弾	発	鉛弾	発	合計	発
残 弾 実 績	非鉛弾	発	鉛弾	発	合計	発

[illegible]

指定管理鳥獣捕獲等事業ニホンジカ捕獲業務実包管理一覧表(記載例)

[illegible]

福島県
指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画
(ニホンジカ)

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

1 背景及び目的

福島県では、ニホンジカの尾瀬への進出が問題になっているが、それに留まらず、豪雪地帯である南会津の全域、会津、さらには中通り地方まで目撃情報が寄せられるなど、すでにこれまで生息していなかった地域に分布が拡大している。また、冬期は県外に移動していると予想されていたが、最近では県内に定住する個体も現れている。今後、さらにニホンジカの分布拡大が予想されることから、隣接県と同様にニホンジカによる農林業被害等の増加が予想される。

ニホンジカによる自然植生への影響については、尾瀬国立公園の特別保護地区及び周辺地域の湿原植物群落で問題になっているが、磐梯朝日国立公園内の磐梯山方面にも拡大する可能性が高い。また、農林業被害については、平成26年度に1,573千円の被害が発生しており（※1）、今のところ一部地域にとどまっているが、その生息地の拡大とともに増加するものと予想される。

〔※1 令和2年度被害額 7,171千円
令和3年度被害額 10,511千円〕

したがって、こうした農林業や生活環境への被害及び森林生態系への影響が拡大する前に、早急に強い捕獲圧をかけ、個体数の増加や生息域の拡大を抑制し、被害を未然に防止することが必要であるが、原発事故以来、狩猟意欲が低下して狩猟者や捕獲従事者が減少しており、農業生産活動等の人為活動が停滞していることとも関連して、ニホンジカの生息数増加につながっていると考えられる。

平成22年度以前は捕獲数や被害も少なく、ニホンジカがいなかったか、いても低密度であったと推測されるが、ニホンジカの捕獲数は、平成24年度以降、有害捕獲、狩猟捕獲とも増加傾向にあり、平成26年度の総捕獲数は576頭（※2）で、平成16年度の約9倍となっている。その捕獲地点は、ほとんどが会津、南会津である。このような捕獲数の増加傾向から、その生息数は徐々に増加してきたものと推測されるが、捕獲実績と自然増加率に基づく試算では、令和2年度の県内のニホンジカの生息数は3,100頭と推定されている。

〔※2 令和2年度捕獲数 2,353頭
令和3年度捕獲数 2,373頭〕

ニホンジカの個体数管理を推進するためには、現在以上に捕獲を強化する必要があり、有害捕獲や狩猟捕獲で不足する捕獲数については、指定管理鳥獣捕獲等事業により対応することとする。実施地域については、「尾瀬の植生を保全するためのシカ対策（第5期計画）」により実施されてきた※尾瀬地区及び尾瀬地域及びシカの生息拡大の恐れのある地域における捕獲を指定管理鳥獣捕獲等事業において行うこととする。（尾瀬地区については環境省が捕獲を行う。）

また、捕獲頭数については、ニホンジカ管理計画（第2期）に基づき、県・市町村・猟友会など関係機関が緊密に連携しながら、狩猟捕獲・有害捕獲・指定管理鳥獣捕獲により、個体数抑制に向け年間1,400頭以上の捕獲に取り組むこととする。

併せて、より効果的な捕獲を行うため糞塊密度調査やドローンを用いた生息状況調査等を実施する。また、事業の効果や得られた知見については、ニホンジカ管理計画に反映させていくこととする。

※尾瀬地区 「尾瀬地区におけるシカ管理方策検討会」において設定された、旧日光国立公園の尾瀬特別保護地区、御池田代特別保護地区及び特別地域並びにこれらの区域に隣接する区域のうちニホンジカによる影響を受けやすいと考えられる区域
尾瀬地域 「尾瀬地区」の周辺地域

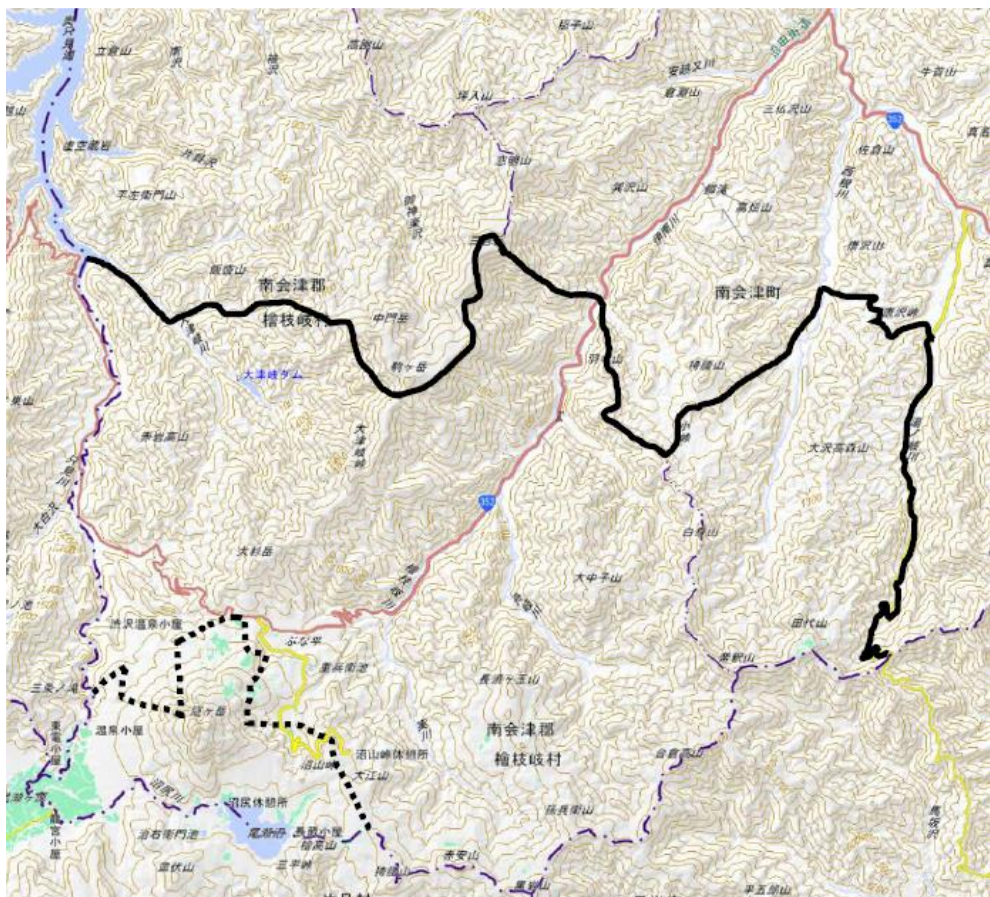


図1 尾瀬地区、尾瀬地域

※ 点線部分より南西の福島県の区域 … 尾瀬地区

※ 点線部分より北東かつ実線部分より南西の福島県の区域 … 尾瀬地域

2 対象鳥獣の種類

ニホンジカ

3 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施期間

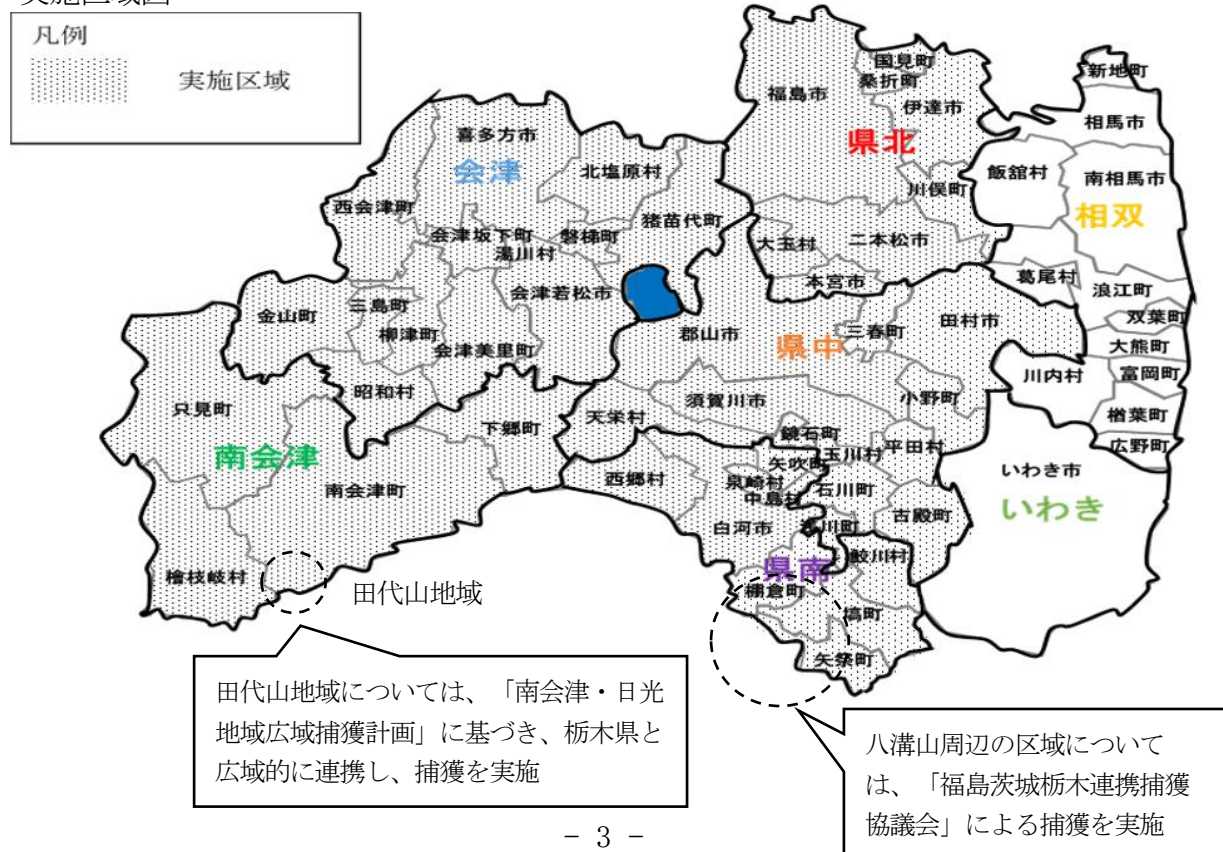
実施区域名	実施期間
県北、県中、 県南、会津、 南会津	令和5年4月1日～令和6年3月31日 (うち、捕獲作業を行う期間) 令和5年4月1日～令和6年3月15日
田代山地域	令和5年4月1日～令和6年3月31日 (うち、捕獲作業を行う期間) 上記期間のうち20日程度

4 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施区域

実施区域名	住所等	選定理由	他法令等
県北	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村	生息密度の高い尾瀬周辺地域、及び生息数拡大が確認されている地域で、今後農林業被害の増加が予測されるため、捕獲の強化を図る。	福島県鳥獣保護区 鳥獣被害防止特措法に定める被害防止計画の対象地域
県中	郡山市、須賀川市、田村市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町		
県南	白河市、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村		
会津	会津若松市、喜多方市、北塩原村、西会津町、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津美里町		
南会津	下郷町、檜枝岐村（※）、只見町、南会津町	ニホンジカの季節移動経路とされており、高山植物の食害が発生しているが、高標高地域であるため十分な捕獲がされていない。	福島県鳥獣保護区 尾瀬国立公園 鳥獣被害防止特措法に定める被害防止計画の対象地域
田代山地域	田代山（南会津町湯ノ花、南会津町宮里）、帝釈山（南会津町宮里、檜枝岐村）		

（※）「尾瀬地区」は環境省が指定管理鳥獣捕獲等事業により捕獲

実施区域図



5 指定管理鳥獣捕獲等事業の目標

実施区域名	指定管理鳥獣捕獲等事業の目標	
県北	捕獲数	20頭
県中	捕獲数	80頭
県南	捕獲数	120頭
会津	捕獲数	150頭
南会津	捕獲数	1,030頭
田代山地域	捕獲数	10頭
尾瀬地区（環境省事業実施分）	捕獲数	40頭
合 計	捕獲数	1,450頭

※全事業実施区域において、計300頭の上乗せを目指す（計1,750頭）。

6 指定管理鳥獣捕獲等事業の内容

(1) 捕獲等の方法

① 使用する猟法と規模

実施区域名	使用する猟法	捕獲等の規模
県北地域	銃猟（巻狩り、忍び猟等を想定） わな猟（くくりわな、囲いわな等を想定）	従事者 50 人日程度 わなの架設基数等、詳細は 受託者と調整のうえで決定 する。
県中地域		
県南地域		
会津地域		
南会津地域		従事者 130 人日程度 わなの架設基数等、詳細は 受託者と調整のうえで決定 する。
田代山地域	わな猟（くくりわなを想定）	わな 1,000 基日程度
尾瀬地区 （環境省事業）	銃猟（忍び猟及び待機射撃） ・ライフル銃を主に使用 わな猟（くくりわな等） ○ライフル銃の使用が必要な理由 尾瀬ヶ原では見通しの良い平坦な地形 が多く、シカに接近することが困難である ことから、300m程度離れた遠距離から射 撃可能なライフル銃の使用が必要な場合 がある。また、尾瀬ヶ原では上述の理由に より視認性が高く、安全確保の面において も、他の地域と比べライフルが運用しやす い地形であることから、安全に捕獲作業に 取り組むことが可能である。	銃 275 人日程度 わな 5,000 基日程度

※銃猟においては非鉛製銃弾を使用（ただし、非鉛製銃弾を使用できない場合は、鳥類の鉛中毒を防止するため、捕獲個体を速やかに処分する等の適切な措置を講じること。）

② 作業手順

・作業手順

準備作業

- ①処分方法（焼却、埋却、両方）の確認を行う。
- ②必要機材の点検・準備を行う。
- ③わな設置場所の選定を行い、設置箇所を記録する。

捕獲作業

（銃猟・わな猟共通）

- ①作業前に従事者によるミーティングを行い、作業手順や安全管理について確認を行う。
- ②作業は2名以上を標準として行う。

（わな猟の場合）

- ①わなの設置（標識表示）を行う。
- ②わなを見回り、捕獲状況の確認を行う。
- ③捕獲されている場合は安全に留意し、止めさしを行う。
- ④錯誤捕獲個体については、「錯誤捕獲時の対応」に基づき、適切に処理を行う。

（銃猟の場合）

- ①周囲の確認を行い、見通の悪い場所や灌木越しでの発砲をしない。
- ②発砲の際は矢先の確認を行う。
- ③半矢にした場合は追跡して極力回収を行う。

処理作業

（銃猟・わな猟共通）

- ①捕獲個体のデータ（捕獲年月日、捕獲（わな設置）場所、性別、体長、体重）を記録し、写真撮影（体長がわかるように）を行う。
また、捕獲に併せて捕獲に関する情報として、捕獲効率（CPUE）、目撃効率（SPUE）を記録する。
- ②捕獲個体を焼却または埋却場所に搬入し処理を行う。

・鳥獣保護区における捕獲

1月から7月は猛禽類の繁殖時期にあたるため、これらの生息が確認されている場所では、止めさしを除いて猟銃は使用しない。

また、鳥獣保護区における捕獲について、猟犬の使用は禁止するとともに、希少な野生獣類が生息している場合は、くくりわなは使用しない。

・安全管理

受託者は、捕獲及び捕獲個体の処分について各作業手順に従事者に徹底させるとともに、次に掲げる関係機関との連絡体制について整備する。

県、市町村、焼却施設管理者、警察、消防、医療機関 等

また、米ぬか等による誘引は、クマが生息する地域においてクマの誘引、錯誤捕獲に繋がることから、安全に配慮して検討すること。

・錯誤捕獲時の対応

ニホンジカ以外の獣が錯誤捕獲された場合は、原則として放獣する。

ただし、指定管理鳥獣であるイノシシが捕獲される可能性がある場合には、事業受託者は予め捕獲許可を取得し、捕獲した場合は適切に処分する。

くくりわなによるクマの錯誤捕獲については、錯誤捕獲防止のためクマが生息する場所での捕獲を控え、錯誤捕獲が発生した場合は作業者の安全を考慮して対応を決定する。

また、カモシカが錯誤捕獲された場合は特別天然記念物を所管する教育事務所

等と連携し放獣に努める。

- ・捕獲個体の回収方法

捕獲個体は地形等の関係から回収不能の場合を除き、すべて回収し持ち帰るものとする。

- ・捕獲個体の処分方法

実施区域の関係者と協議の上、一般廃棄物として焼却又は埋設する等適切に処理する。また、放射線モニタリング調査のため、検体として必要な部位については回収し県へ提出する。

- ・捕獲情報の収集および評価

事業受託者から捕獲に係る各種記録を収集し、専門家の意見も踏まえ、捕獲数や捕獲位置情報のほか、捕獲等の方法などの結果から、目標に対する寄与の程度、指定管理鳥獣捕獲等事業の効果及び妥当性を検証し、改善すべき事項の検討を行うものとする。

田代山地域及び尾瀬地区においては、捕獲した個体にGPS発信機を装着し、ニホンジカの効果的捕獲のための移動経路の状況把握を行う。

(2) 捕獲等をした個体の放置に関する事項

田代山地域及び尾瀬地区に限って捕獲等をした個体の放置を可能とする（ただし、尾瀬地区は環境省が指定管理鳥獣捕獲等事業により捕獲を実施）。

ただし、銃猟にあつては、鉛弾を使用しないこととし、放置した個体又は放置個体に誘引された鳥獣等により発生する生態系、住民や公園利用者の安全、生活環境又は地域の産業への影響に十分配慮すること。

(3) 夜間銃猟に関する事項

実施しない。

7 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施体制

- ・事業主体

福島県、環境省

- ・実施形態

委託

- ・委託先

認定鳥獣捕獲等事業者

8 住民の安全を確保し、又は指定区域の静穏を保持するために必要な事項

(1) 住民の安全の確保のために必要な事項

県は、市町村を通じて住民や関係者に対し事業内容について周知を図る。

必要に応じ事業実施区域周辺に注意を促す看板等を設置し、山菜採りや登山等で入山した住民の安全を確保し、事故等の発生がないよう万全を期す。

また、受託者は、銃猟実施時の立入規制措置や監視方法を定めるとともに、わな設置時の注意喚起看板等の掲示を行い、住民の安全を確保する。

(2) 指定区域の静穏の保持に必要な事項

社寺境内や墓地に比較的近い場所においては、わなの設置は控え、静穏の保持に努めることとする。

9 その他指定管理鳥獣捕獲等事業を実施するために必要な事項

(1) 市町村等との協議、調整

生息頭数が多い南会津管内4町村（南会津町、檜枝岐村、下郷町、只見町）及び生息が拡大しつつある会津管内3市町村（会津若松市、北塩原村、猪苗代町）については、福島県と7市町村が「会津地域ニホンジカ対策推進協議会」を作り、お互いが情報を共有し、指定管理鳥獣捕獲等事業の円滑な実施を図る。

また、八溝山を中心とする福島県、茨城県及び栃木県の3県境地域においてもニホンジカの目撃がされているため、「福島茨城栃木連携捕獲協議会」が実施する生息状況調査の結果を活用するとともに、本事業で得た情報を協議会にフィードバックするなど、相互に連携しながら効果的な対策を図る。

田代山地域での指定管理鳥獣捕獲等事業の実施に当たっては、「南会津・日光地域広域捕獲計画」に基づき、栃木県と広域的に連携し、効果的に実施する。

事業の受託者は、捕獲活動に関係する市町村や関係団体等と十分に協議、調整をした上で事業を実施する。

(2) 事業において遵守しなければならない事項

連絡用無線機は適切な機器を選定するとともに、使用に当たっては電波法令を遵守し、適切な使用に努める。

(3) 事業において配慮すべき事項

捕獲した個体がやむを得ず回収できず、猛禽類等の採餌等により鉛中毒被害が生じることを防ぐため、可能な限り鉛弾を使用しないよう努める。

また、埋設処分の際には水源等への影響が無いよう努める。

(4) 地域社会への配慮

県及び受注者は、実施区域、実施日時、実施方法等について、地域社会とのあつれきが生じないように配慮する。

鳥獣管理について広く周知を図り、捕獲等の必要性について理解が得られるよう努める。

豚熱（CSF）対策にかかる防疫措置の手引き

- ※ 詳細は、環境省 HP「CSF・ASF 対策としての野生イノシシの捕獲等に関する防疫措置の手引き」を参照。（可能な限り御協力願います）
- ※ 必要な資材は捕獲重点エリアの対象となった市町村へ配布します。

野生イノシシ捕獲・止め刺し時の服装

- 捕獲・止め刺しの際には、防護服、マスク、手袋、長靴を着用するなどし、衣類等への血液付着を防いでください。（※防護服は、タイベック限定ではなく、じゅうぶん衣類の汚れを防げるもの（雨ガッパ等）での代替が可能です。）
- 長靴、猟銃、ナイフなど使い捨てできない物は、じゅうぶんに消毒し、その他はビニール袋にまとめて、焼却処分してください。
（ビニール袋の外側に消毒液（パコマ）を噴霧してください。）

※消毒薬の濃度調整（希釈）の目安

水	消毒薬		
	5ml	10ml	20ml
1 L	200 倍		
2 L	400 倍	200 倍	
4 L	800 倍	400 倍	200 倍
5 L	1,000 倍	500 倍	250 倍
10 L		1,000 倍	500 倍
20 L			1,000 倍

（例）パコマを 400 倍に希釈する場合の調整方法
2 L ペットボトルに水を入れ、ペットボトルの
キャップ 1 杯（1 杯約 5ml）の消毒薬原液を加える。



消毒薬の希釈



足元の消毒



わなの消毒

現場作業後、駐車場での消毒

1 手袋の消毒等（駐車場所到着時）

- 手袋をアルコールスプレーで消毒してから車のドアを開ける。

2 捕獲個体と荷物の積み込み

- 車両の荷台等に、汚染防止用のブルーシート等を敷く。
- イノシシを包んだブルーシート等を改めて消毒してから積み込む。
- 現場に持ち出した猟具、器具などは、全て改めて消毒してから積み込む。
- 現場で出た汚物等の入ったゴミ袋は、外側に消毒液を噴霧し、そのまま別のゴミ袋に入れて二重にし、再度外側を消毒して積み込む。

3 猟犬の消毒

- 体表及び足裏の泥汚れなどを十分に落とす。
- 可能であれば、体表、特に足裏に消毒薬を噴霧し、消毒することが望ましい。
- リード等の器具を消毒した上で、荷台に乗せる

4 車両の消毒

- タイヤとタイヤハウス内は、ブラシ等で土や汚れを落とす。
- タイヤや車両で土や汚れが付いた部分を中心に、消毒薬の噴霧器で消毒する。
※タイヤは作業現場から出る際にも消毒する。

5 全身、手袋、長靴の消毒、乗車

- 長靴の泥、落ち葉などをブラシなどで取り除く。
アルコールスプレーや消毒液で全身を消毒し、作業靴等に履き替える。
- 長靴と使用したブラシを消毒薬の噴霧器で消毒し、ビニール袋等に入れる。
- 手袋を外し、手指をアルコールスプレーで消毒する。
- 作業靴等の裏とドアノブをアルコールスプレーで消毒してから、乗車する。